



取扱説明書

CONTAX Tix

お買い上げいただきありがとうございます。
このカメラは、「作品をつくるカメラ」というCONTAXの基本思想を継承しながら、新たに設計した高性能レンズとF2.8の明るいレンズの性能を活かす高速・高性能シャッターを搭載した、**アドバンスト フォト システム（Advanced Photo System）**のコンパクトカメラです。**IX240カートリッジフィルム**を使用し、アドバンスト フォト システムの利点を生かした撮影を気軽にお楽しみいただけます。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いでお使いください。

現像・プリントを依頼するときは



アドバンスト フォト システムの利点をお楽しみいただくため、このマークを表示しているお店にご依頼ください。このマークは、アドバンスト フォト システムに対応できるお店であることを表わしています。
取り扱い内容など、詳しくはお店におたずねください。

目次

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

⚠警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

取り扱い上の注意

〈カメラ使用上の注意〉

- このカメラは防水構造になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水にぬれてしまったときは、早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- 撮影レンズ、測距窓、測光窓などを指紋などで汚すとカメラの精度に影響を及ぼしますので充分注意してください。もし汚れた場合はむやみに拭かず、セーム皮や市販の眼鏡拭き用紙などで軽く拭く程度にしてください。また、ゴミやホコリはブロアーで吹き飛ばすかレンズ刷毛で払うようにしてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので絶対に使用しないでください。
- レンズの鏡胴（繰り出し部分）には無理な力を加えないでください。故障の原因になります。
- カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、ずれたりしている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。

⚠注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙、発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うと内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また、予備の電池を携行してください。**

⚠警告	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ● 本機内部には高電圧回路が組み込まれています。落下などでストロボ部が破損したときは、内部には絶対に手を触れないでください。感電する危険があります。 ● 自分でカメラを分解しないでください。高電圧回路があり、感電する危険があります。 ● ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて、撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

〈カメラの保管について〉

- 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
- カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈カメラが作動しなくなったとき〉

このカメラは、外部の強力な静電気等に対して、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにして一度電池を取り出し、表示パネルの表示が消えた後再度入れ直してから、ご使用ください。また日付・時刻や記録するデータもセットし直してください。

〈カートリッジフィルム取扱上の注意〉

アドバンスト フォト システムのフィルムは磁気情報を使用しています。カートリッジフィルムを磁石に近づけたり、強い磁力を発生している機器（テレビ、スピーカー等）には近づけないでください。磁気情報が失われて、アドバンスト フォト システムの性能を発揮できなくなることがあります。

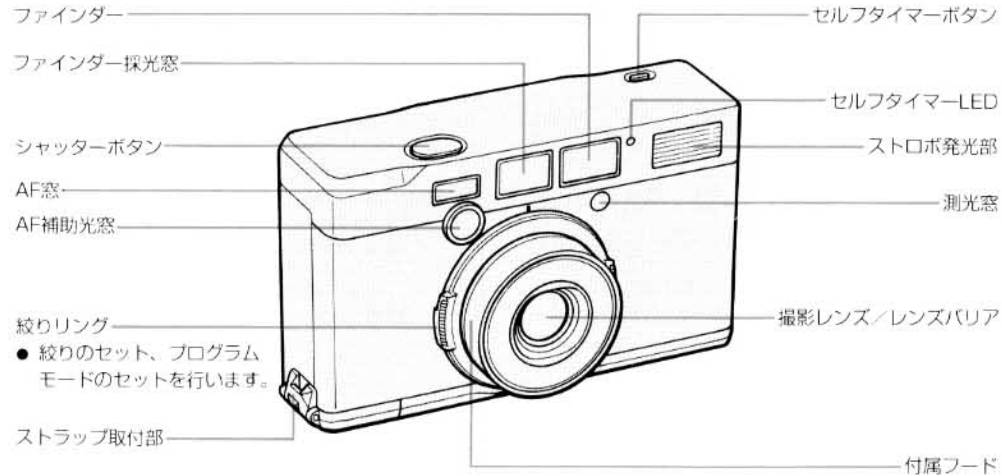
〈電池取り扱い上の注意〉

- 電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。
- 長期の旅行などには、予備の新しい電池を用意してください。
- 電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

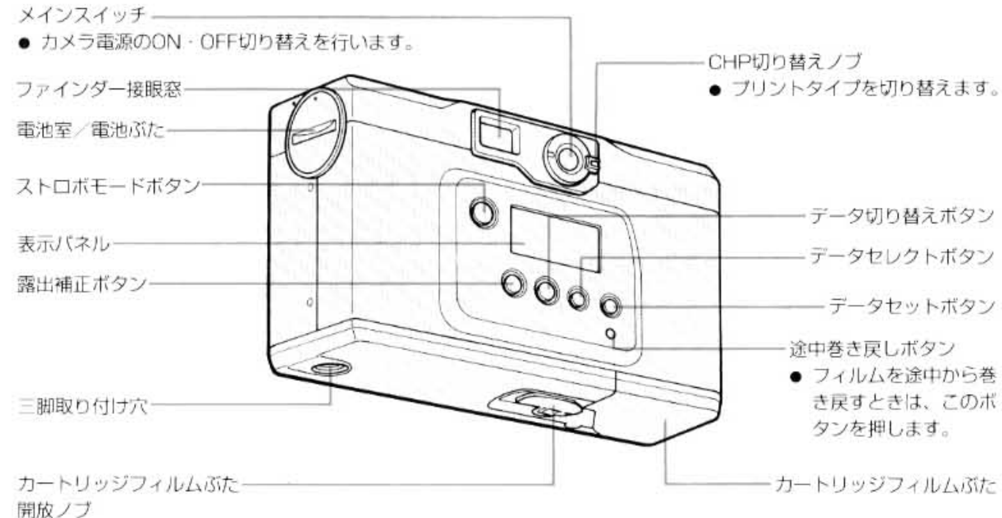
⚠注意	● 金属製のピンセットのような導電性のあるもので電極に触れないでください。電池の消耗を早めるだけでなく、ショートして危険です。

⚠警告	● 電池を火の中に入れたり、充電、ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ● CR2（3Vリチウム電池）は充電禁止です。 ● 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

各部の名称と主な働き



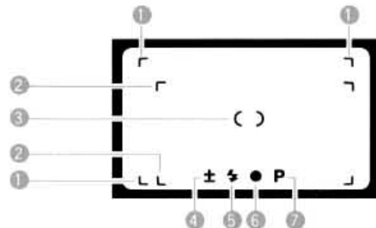
ファインダー
セルフタイマーボタン
ファインダー採光窓
セルフタイマーLED
シャッターボタン
ストロボ発光部
AF窓
測光窓
AF補助光窓
絞りリング
● 絞りのセット、プログラムモードのセットを行います。
撮影レンズ／レンズバリア
ストラップ取付部
付属フード



メインスイッチ
● カメラ電源のON・OFF切り替えを行います。
CHP切り替えノブ
● プリントタイプを切り替えます。
ファインダー接眼窓
電池室／電池ぶた
ストロボモードボタン
データ切り替えボタン
表示パネル
データセレクトボタン
露出補正ボタン
データセットボタン
途中巻き戻しボタン
● フィルムを途中から巻き戻すときは、このボタンを押します。
三脚取り付け穴
カートリッジフィルムぶた開放ノブ
カートリッジフィルムぶた

ファインダー表示

（①〜③は低輝度時にシャッターボタン半押しで照明されます。また④〜⑦はシャッターボタン半押しで合焦した時に表示します。）



❶撮影範囲枠
通常の撮影では、この枠内で見える範囲が写ります。撮影範囲枠は、プリントタイプに連動して切り替わります。

❷近接撮影範囲枠
撮影距離が約1.0m〜0.35mのときはこの枠の範囲内に被写体を入れてください。

❸フォーカスフレーム
ピント合わせを行う範囲です。

❹露出補正マーク
露出補正を設定しているとき表示します。

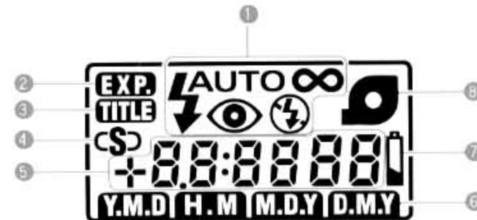
❺ストロボマーク
点灯：ストロボ撮影になるとき
点滅：ストロボ充電中
早い点滅：ストロボ光がとどきません。

❻フォーカス表示（測距状況を知らせます。）
点灯：ピントが合っています。
点滅：ピント合わせができません。

❼プログラム表示
絞りリングを“P”（プログラムオート）にセットしているとき、または絞り優先オート連動範囲外で自動的にプログラムオート撮影になるとき表示します。
点滅：自動露出制御範囲外です。明るいところの点滅は露出オーバー、暗いところの点滅は露出アンダーになります。

表示パネル

（表示パネルの図は説明のため全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。）

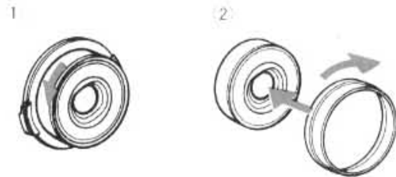


❶ストロボモードマーク
ストロボ自動発光モード“ϟAUTO”
ストロボ赤目軽減自動発光モード“ϟAUTO”
ストロボ強制発光モード“ϟ”
ストロボ発光禁止モード“Ⓢ”
遠景撮影モード“∞”

❷露出データ記録マーク
❸タイトル記録マーク
❹スポットオートフォーカスマーク“(S)”
❺露出補正値、タイトル番号、言語番号、日付、シャッタースピード(※)、フィルムカウンター表示
❻デートマーク
❼バッテリー警告マーク“▯”
❽カートリッジマーク“◘”

※シャッタースピード：
シャッターボタン半押しで表示されます。
- 暗くて長時間露出になるときは、シャッターを切ったときに経過時間を表示します。
- “1000”または“15”が点滅するときは、露出オーバー／露出アンダーの警告です。

〈付属フードについて〉

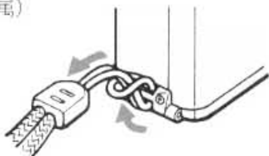


1 矢印方向に回してとりはずします。
2 逆さまにしてレンズ鏡胴に時計方向に回して取り付けます。

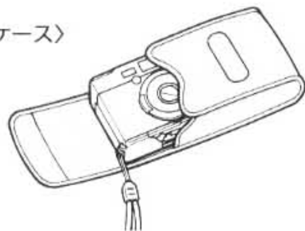
● フードは軽く持って回すとスムーズな脱着ができます。
● 使用後は、フードを元に戻してからカメラケースに収納してください。

〈ストラップの取り付けかた〉

ストラップは図のように取り付けてください。(ハンドストラップとショルダーストラップの2種類付属)

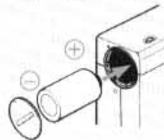


〈カメラケース〉

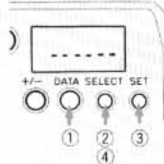


撮影手順の早わかり

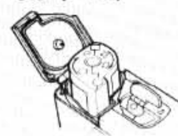
1 電池を入れます。(P14)



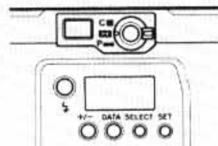
2 日付・時刻を合わせます。(P16)



3 カートリッジフィルムを入れます。(P19)



4 電源をONにします。(P22)



5 絞りリングを "P" にセットします。(P23)



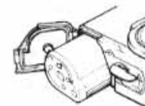
6 構図を決めて撮影します。(P23)





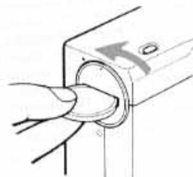
撮影が終了したら

7 カートリッジフィルムを取り出します。(P25)

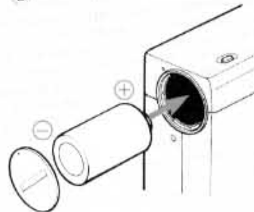


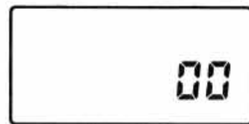
1. 電池を入れます。

①



②





1 電池ぶたをコインやストラップアジャスターなどを利用し、矢印方向に回し、電池ぶたの“・”とカメラの“・”をあわせて電池ぶたを開けます。

2 電池室内の表示に従って3Vリチウム電池（CR2）1個を正しい向きで入れ、ふたを元通り閉めます。

〈バッテリーチェック〉

電池を入れた後、カメラを一度作動させてください。表示パネルに“▯”（バッテリー警告マーク）が表示されなければ、電池の電圧は正常です。



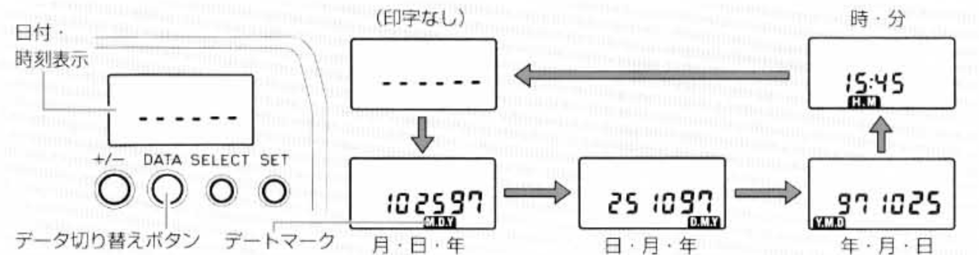
〈電池の交換時期〉

表示パネルに“▯”マークが点灯したら、電池交換の時期です。カメラ電源を“OFF”にしてから新しい電池と交換してください。

カメラから電池を取り出したときは、すみやかに新しい電池を入れてください。電池を抜いて約30秒放置するかメインスイッチ等のボタンを押すと日付・時刻およびタイトルがリセットされます。そのときは設定し直してください。

- “▯”マークが点灯してからも撮影はできますが、すみやかに電池交換してください。電池容量が使用限界を超えると、表示パネルの“▯”マークが点滅または消灯し、カメラは作動しなくなります。
- 電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し、“▯”マークが点灯することがあります。新品電池装着後すぐに“▯”マークが点灯した場合は、一度メインスイッチを“OFF”にし再度ONにしてください。この操作を行って“▯”マークが消えたらそのままお使いいただけます。

2. 日付・時刻の設定

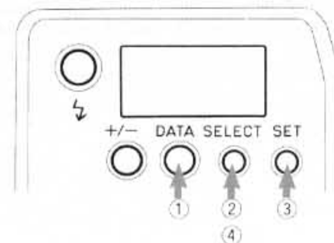


日付・時刻を設定するときはメインスイッチを押してカメラ電源をOFFにします。

カメラ電源をOFFにし、データ切り替えボタンを押すと、表示パネルに"- - - - - -"または日付か時刻が表示されます。

① **データ切り替えボタンを押して修正する日付または時刻表示を出します。**

データ切り替えボタンを押すごとに、- - - - - - (印字なし) ⇒ 月・日・年⇒日・月・年⇒年・月・日、⇒時・分に表示が切り替わります。



② **セレクトボタンを押して修正する位置の数字を点滅させます。**

③ **セットボタンを押して正しい数字にします。**

(時刻表示で":"が点滅している場合は"秒"合わせです。時報に合わせてセットボタンを押すと正確な時刻合わせができます。)

④ **日付・時刻の両方の修正が終わったら数字と":"の点滅が消えるまでセレクトボタンを押します。**

● 点滅表示は約60秒放置するとカウンター表示に切り替わり、点滅表示時の数値で設定されます。修正は点滅中に行ってください。

〈日付・時刻を記録するには〉

撮影した日付や時刻を磁気情報としてフィルムに記録し、写真の両面または裏面に印字することができます。

①カメラ電源をOFFにします。

②データ切り替えボタンを押して印字する日付／時刻を選びます。

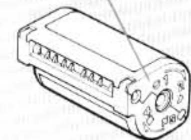
データ切り替えボタンを押すごとに、- - - - - -（印字なし）⇒　月・日・年⇒日・月・年⇒年・月・日、⇒時・分に表示が切り替わります。

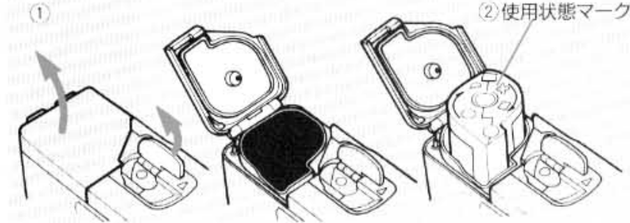
● 日付・時刻の表示は約15秒後に消えデートマーク表示だけになります。セット内容を確認したいときはデータ切り替えボタンを一度押してください。

③カメラ電源をONにしてシャッターボタンを押して撮影すると、日付／時刻が記録されます。

文字の大きさ、形状、印字位置等、お店によって異なる場合がありますので、詳細はプリントを依頼されるお店でご確認ください。

3. カートリッジフィルムを入れます。





フィルムは、図のようなマークのついた IX240 カートリッジフィルムをご使用ください。

フィルムはカートリッジ内に収納されており、取り扱いが簡単な、ワンタッチローディング方式です。フィルム感度、撮影枚数は、カメラが自動的に判断します。

①カートリッジフィルムぶた開放ノブを図の矢印方向へ回してカートリッジフィルムぶたを開けます。

②図のように、新しいカートリッジフィルムを、使用状態マーク側を上にして入れます。

● カートリッジの使用状態マークが"○"（未使用）のものをご使用ください。

● カートリッジフィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。



- カートリッジフィルムぶた開放ノブは元通り収納してください。

3 **カートリッジフィルムぶたを“カチッ”と、確実に閉めます。**

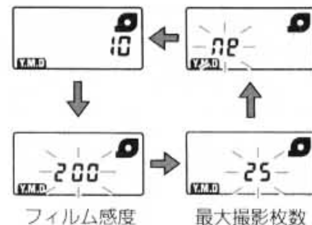
ふたを閉めると、フィルムが自動的に空送りされます。

モーターが停止したら撮影準備完了です。

表示パネルには“ ”と“撮影できる枚数”が表示されます。

- “ ”マークが点滅しているときは、正しくカートリッジフィルムが入っているか確認してください。

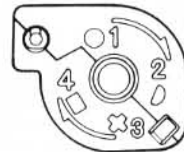
フィルムの種類（例：ネガ）
ne：ネガカラーフィルム
Po：ポジフィルム（リバーサル）
b：白黒フィルム

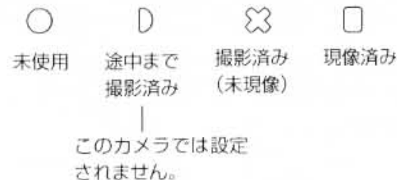


〈フィルム感度、最大撮影枚数、フィルムの種類の確認〉

カメラ電源が“OFF”のときストロボモードボタンを押すと、押すごとに“フィルム感度”→“最大撮影枚数”→“フィルムの種類”の順で点滅表示されます。約8秒間点滅表示したら“撮影できる枚数”表示に戻ります。

使用状態マーク



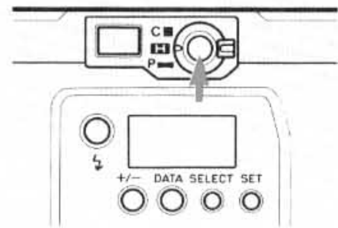


使用状態マーク

カートリッジフィルムには、使用状況を示すマーク（使用状態マーク）がついています。このカメラでは、**「未使用」、「撮影済み（未現像）」、「現像済み」**の3つが、使用状況に合わせて白く表示されます。

- このカメラは二重露光防止機能が働きますので、「撮影済みのカートリッジフィルム」を入れると撮影できず、表示パネルには“ ”が点滅表示されます。
- このカメラでは、撮影途中でフィルムを巻き戻すと「途中まで撮影済み」にはならず、「撮影済み」になります。
- このカメラでは、「途中まで撮影済み」のフィルムを再使用できません。カメラに装填しても「撮影済み」になります。

4. カメラ電源をONにします。





電源ON　　電源OFF

メインスイッチを押すとカメラの電源がONになります。

レンズバリアが開き、レンズが繰り出されて、撮影ができる状態になります。

表示パネルには“⚡AUTO”が表示されストロボ自動発光モードになります。

- メインスイッチをもう一度押すとレンズが収納されてレンズバリアが閉じカメラの電源がOFFになります。
- カメラをすぐに使わないときは、不用意にシャッターが切れるのを防ぐためにカメラの電源をOFFにしてください。

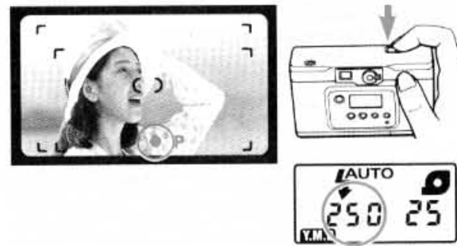
5. 絞りリングを“P”にします。



絞りリングを回して“P”にセットします。

“P”にセットするとプログラムオート撮影になり、被写体の明るさに応じて絞りとシャッタースピードを自動的にコントロールします。

6. 構図を決めて撮影します。



1. **フォーカスフレームを被写体に向け、シャッタボタンを半押ししてください。**
   ピント合わせが行われるとファインダー内“○”マークが点灯します。また表示パネルには、シャッタースピードが表示されます。
2. **“○”マークが点灯したことを確認してから、そのまま静かにシャッターボタンを押して撮影します。**

このカメラは外部パッシブ方式のマルチオートフォーカスを搭載していますので、被写体がフォーカスフレームから多少はずれていてもピント合わせができます。

暗いところでの撮影では、撮影範囲枠・近接撮影範囲枠・フォーカスフレームがシャッターボタン半押しで照明されます。

- ● ストロボ強制発光モード"⚡"、ストロボ発光禁止モード"⊘"、遠景撮影モード"∞"の時はシャッタースピードが遅くなりますので、表示パネルでご確認ください。
- ● 表示された時間、シャッターが開いていますので、カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

- ● シャッターボタンを半押し時、ファインダー内"⚡"が点灯するときはストロボが発光します。
- ● シャッターボタンを押すと同時にピント合わせのため撮影レンズが前後に動きます。撮影するときは撮影レンズに触れないよう注意してください。
- ● ピント合わせができないときは、"○"マークが点滅し、シャッターが切れません。等距離にある別の被写体でフォーカスロック（P41）して撮影してください。
- ● 暗くてオートフォーカスの精度が低下するときには、AF補助光窓から赤外線を発光して被写体を照射し、オートフォーカスの精度を高める機構になっています。AF補助光の有効距離は約5mです。

プリント品質向上（PQI）機能

このカメラは、撮影時に撮影情報をフィルムへ自動的に磁気記録します。この情報を基に最適な品質が得られるようプリント時に補正されます。

7. カートリッジフィルムを取り出します。



カートリッジフィルムを全部撮影し終えると自動的に巻き戻しが始まります。

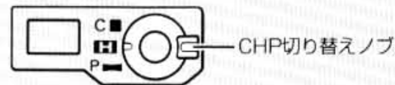
巻き戻し中はフィルムカウンターが減算表示します。巻き戻しが終了するとモーターが停止し"00"が点滅します。

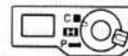
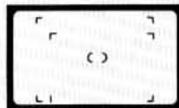
モーターが停止し"00"が点滅していることを確認してから、カートリッジフィルムぶたを開けて、カートリッジフィルムを取り出してください。

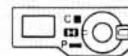
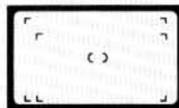
- ● 取り出したカートリッジフィルムは早めに現像に出してください。
- ● フィルムを途中で巻き戻すときは、途中巻き戻しボタン"R"を付属のストラップアジャスターの先端で押してください。（針などの鋭く尖ったものでは押さないようにしてください。）
- ● 巻き戻しの途中ではカートリッジフィルムぶたを開けないでください。
- ● 万一開けてしまった場合は、すぐに閉めて最後まで巻き戻してください。この場合、撮影済みのコマも光漏れにより正しく写っていないことがあります。

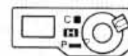
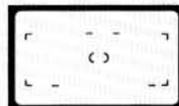
撮影のテクニック

1. プリントタイプの切り替え



このカメラは、3種類のプリントタイプを選ぶことができます。CHP切り替えノブで切り替えてください。

〈Cタイプ〉

縦横比2:3のプリントタイプです。

〈Hタイプ〉

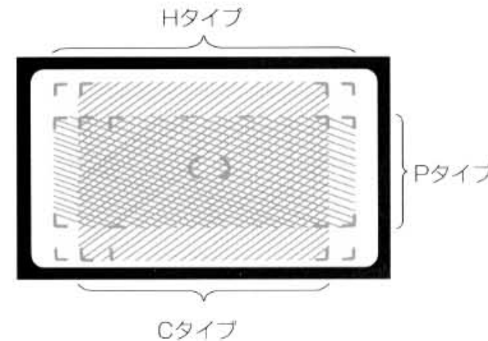
縦横比が9:16の迫力ある、プリントタイプです。

〈Pタイプ〉

縦横比が1:3、パノラマタイプのプリントです。広がった風景を撮るときなどに適しています。より雄大な雰囲気を出すには、後ろにさがるなどして広い範囲が写るよう心がけてください。

- 〈Pタイプ〉のときは1m以上離れて撮影してください。

タイプにあわせてファインダーの撮影範囲枠が図のように変わりますので、範囲枠の内側に被写体を入れて撮影してください。

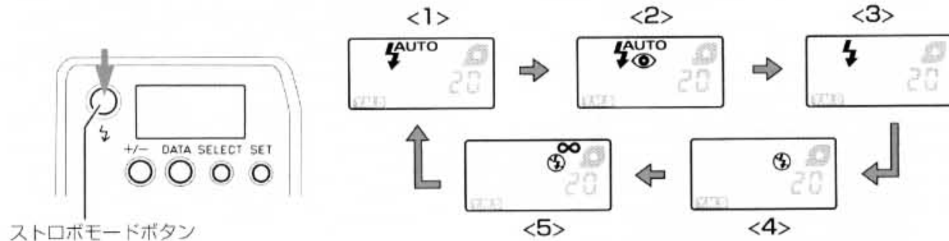


3種類のプリントタイプ

3種類のプリントタイプ（C/H/P）は、Hタイプの撮影画面を基準にして、次のようにしてプリントしたものです。Cタイプは、Hタイプの画面の左右をカットして引き伸ばしたもの、Pタイプは、Hタイプの画面の上下をカットして引き伸ばしたものです。

- 画角は変わりません。
- 撮影枚数はどのタイプも変わりません。

2. ストロボモードボタンを使った撮影



ストロボモードボタン

ストロボモードボタン "⚡" を押すごとに、**ストロボ自動発光モード**（カメラの電源をONにしたとき、まずこのモードになります。）**→ストロボ赤目軽減自動発光モード→ストロボ強制発光モード→ストロボ発光禁止モード→遠景撮影モード**の順に切り替わり、表示パネルに表示されます。希望するモードにして撮影してください。

- カメラの電源をONにしたときに "ストロボ自動発光モード" 以外のモードにセットすることもできます。詳しくはP33をご覧ください。

〈1.ストロボ自動発光モード〉"⚡AUTO"

シャッタースピードが1/60秒より遅くなる明るさのときは、自動的にストロボ撮影になります。このときシャッタースピードは1/60秒になります。

- ストロボ撮影になるときはファインダー内の "⚡" が点灯します。

《逆光自動ストロボ発光》

このカメラはストロボ自動発光モード "⚡AUTO" およびストロボ赤目軽減自動発光モード "⚡AUTO◉" のとき、画面中央に被写体がある逆光下での撮影では、被写体がきれいに写るように明るさによって自動的にストロボが発光することがあります。

〈2.ストロボ赤目軽減自動発光モード〉"⚡AUTO◉"

暗いところで人物をストロボ撮影すると、まれに瞳が赤く写る（赤目現象）ことがあります。この赤目現象を軽減させる撮影方法です。
このモードではストロボが約0.7秒間隔で2回発光し、2回目の発光のときにシャッターが切れます。
1回目と2回目の間にセルフタイマーLEDが点滅します。1回目の発光後カメラを動かしたり、人物が動かないように注意してください。

- 発光する条件は自動発光モードと同じです。暗くなると自動的にストロボ撮影に切り替わります。

〈3. ストロボ強制発光モード〉"ϟ"

明るさに関係なくストロボが発光するモードです。明るいところでは日中シンクロ撮影に、暗いところではスローシンクロ撮影になります。

《日中シンクロ撮影》

屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、ストロボ強制発光モードにすると日中シンクロ撮影になり人物も背景もきれいに描写することができます。

《スローシンクロ撮影》

人物を撮るなどのときに、夕景や夜景など暗いところでバックの情景も生かした撮影を行うには、ストロボ強制発光モードにするとスローシンクロ撮影になり、人物も夕景もきれいに描写することができます。

- **スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。**

〈4. ストロボ発光禁止モード〉"⊛"

夕暮れや室内のムードを生かした写真を撮るなど、ストロボを発光させずに撮影したいときはこのモードにセットしてください。被写体の明るさに応じて露出を決定しますので自然な感じの写真が撮れます。

- 暗いときは遅いシャッタースピードになります。カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。
- このモードのときは、暗くても"ϟ"は表示しません。

〈5. 遠景撮影モード〉"⊛∞"

遠くの風景などを撮影するときにこのモードにします。よりシャープな風景写真を撮ることができます。

- 被写体の位置にかかわらず、ピントは常に∞（無限遠）になりファインダー内には"○"が点灯します。
- このモードにすると自動的に"ストロボ発光禁止モード"になり暗くてもストロボは発光しません。
- 暗いときは遅いシャッタースピードになります。カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

暗いところでの撮影

暗いところでの撮影では、撮影範囲枠・近接撮影範囲枠・フォーカスフレームがシャッターボタン半押しで照明されます。

- ストロボ強制発光モード"ϟ"、ストロボ発光禁止モード"⊛"、遠景撮影モード"⊛∞"の時はシャッタースピードが遅くなりますので、表示パネルでご確認ください。
- 表示された時間、シャッターが開いていますので、カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

ストロボ撮影時のご注意

- ファインダー内の"ϟ"が、充電中には点滅し、充電完了すると点灯しますので、充電完了を確認してから撮影してください。
- ファインダー内の"ϟ"が、早い点滅のときは、ストロボ撮影範囲外の警告です。そのまま撮影すると露出アンダーになりますので、絞りを開くかストロボ撮影距離の範囲内（P32）で撮影してください。
- 充電中にシャッターを切ることはできません。

〈ストロボ撮影距離範囲〉

ストロボ撮影のときはP（プログラムオート）で撮影することをおすすめします。

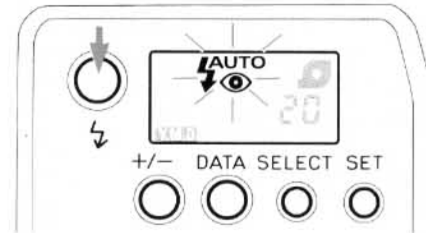
絞り優先オートで絞りを絞り込むとストロボ撮影距離範囲が短くなりますのでご注意ください。

- ストロボ撮影距離範囲外のときは、ファインダー内"ϟ"が早い点滅をします。
- リバーサルフィルム使用時は点滅表示よりさらに撮影距離範囲が短くなりますので右表の撮影範囲内で撮影してください。

▭（網掛け）：ISO400フィルム使用時
▭：ISO200フィルム使用時
▭（細線）：ISO100フィルム使用時

ストロボ撮影距離範囲（m）

絞り：P、F2.8、F4、F5.6、F8、F11、F16
目盛：0.35、1、2、3、4、5



〈最初にセットされるストロボモードについて〉

カメラ電源をONにしたときにセットされるストロボモードを変更することができます。
多用されるモードをセットしておくと便利です。

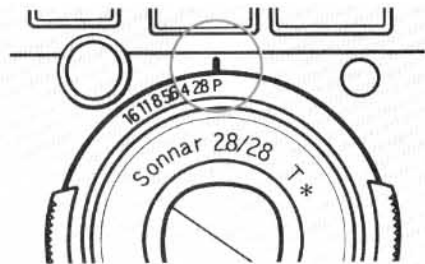
- 遠景撮影モードは設定できません。

①カメラ電源ON時、ストロボモードボタンをストロボモードマークが点滅するまで押し続けます。（約2秒）

②点滅したら一旦ボタンから指を離し、再度ボタンを押して希望のモードを選びます。

③約8秒で自動的に点滅から点灯に変わりセットが完了します。

- シャッターボタン半押しまたは、カメラ電源OFFでもセットされます。



撮影目的や用途に応じて次の露出モードが選べます。絞りリングを回してセットします。

プログラムオート：Pにセットします。
絞り優先オート：　絞り値2.8〜16にセットします。

〈1. プログラムオート〉

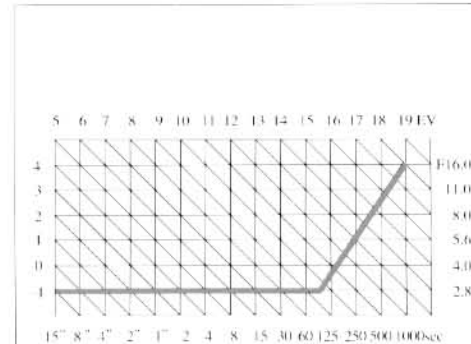
あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組み合わせの中から、被写体の明るさに適した組み合わせをカメラが自動的に選び気軽に撮影できます。

〈2. 絞り優先オート〉

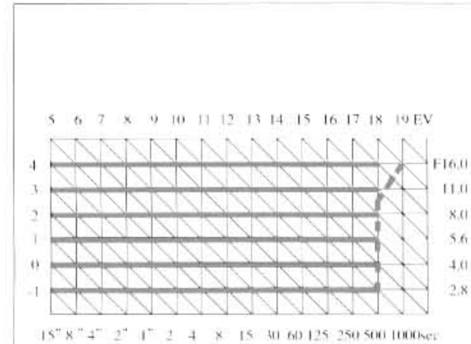
あらかじめ絞りをセットすることにより、被写体の明るさに応じてシャッタースピードを自動的にコントロールし、適正露出を得ます。
作画意図に合わせ、被写界深度を利用しての撮影に適しています。

● 被写体が明るすぎてセットした絞りでは適正露出が得られない場合は、自動的にプログラムオートに切り替わりファインダー内に "P" が表示されます。

〈各露出モード時の各絞りに対する測光範囲およびシャッタースピード〉（ISO100）

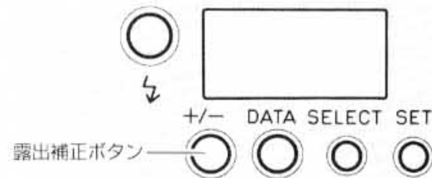


プログラムオート



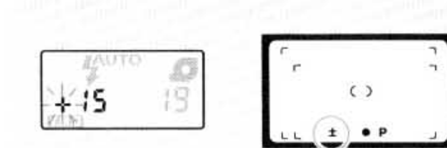
絞り優先オート

4. 露出補正



撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合に露出の補正を行います。
また、意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときにも利用します。
補正には次の2通りの方法があります。

● 露出補正中は、シャッターボタン半押し時、ファインダー内に"±"が点灯します。

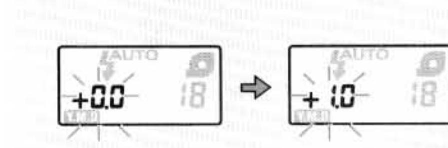


〈1. ワンショット補正モード〉

1コマだけす早く露出補正を行うことができます。

露出補正ボタンを1回押すとそのコマに限り「+1.5EV」補正されます。

● 表示パネルには"+1.5"が表示され"+"が点滅します。
● ワンショット補正設定後に解除したいときは、もう一度露出補正ボタンを押してください。



〈2. 連続補正モード〉

(+2EV〜−2EV補正)
「何コマか続けて補正したいとき」「補正の必要なフィルターを使用するとき」「意図的にフィルム全体をアンダー/オーバーにしたいとき」に使用します。

①**露出補正ボタンを押し続け(約2秒)、"+0.0"の点滅表示になったら指を離します。**

②**露出補正ボタンを押すごとに、点滅表示が次のように変わりますので希望の補正値にセットしてください。(補正値は点滅のままです。)**
+0.0→+0.3→+0.7→+1.0→+1.3→+1.7→+2.0→−0.0→−0.3→−0.7→−1.0→−1.3→−1.7→−2.0→+0.0→以後繰り返し

③**そのまま撮影します。**
● 一度セットすると、解除するまで補正し続けます。
● 撮影終了後は必ず露出補正なし(表示パネルに補正値が表示されない状態)に戻してください。
● 連続補正モードを解除するには、補正表示が消えるまで露出補正ボタンを押し続けてください(カメラ電源ON時約2秒)。ワンショット補正モードに戻ります。通常は失敗を防ぐため、ワンショット補正モードで使用することをおすすめします。
● 連続補正時はワンショット補正はできません。
● カメラ電源をOFFにすると補正表示は点灯表示になります。



補正なし



+に補正

逆光などのときは…

"+0.3" ～ "+2" の範囲で補正します。

逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を+0.3～+2の範囲で補正して、露出を多く与えます。



補正なし



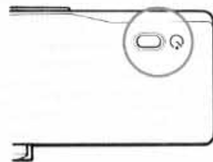
−に補正

暗い背景などのときは…

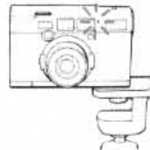
"−0.3" ～ "−2" の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは露出を−0.3～−2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

5. セルフタイマー撮影







記念撮影など、自分も一緒に写りたいときはセルフタイマーを利用します。

1 **カメラを三脚などで固定し、構図を決めます。**
2 **フォーカスフレームを被写体に向けセルフタイマーボタンを押します。**
3 **ピント合わせが行われて、セルフタイマーがスタートします。**

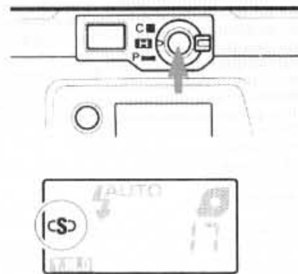
ファインダー内"○"と、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅して10秒後にシャッターが切れます。表示パネルには残り時間が表示されます。

- セルフタイマースタート時にピントと露出が固定（ロック）されます。
- ストロボ充電中（ストロボ撮影時）はセルフタイマーは作動しません。
- セルフタイマーを途中で中止するときは、セルフタイマーボタンを再度押すか、カメラ電源をOFFにしてください。
- セルフタイマーがスタートせず、セルフタイマーボタンを離した時に"○"マークの点滅が消える場合は、ピント合わせのできない被写体にフォーカスフレームが向いています。被写体の別の部分がフォーカスフレームに入るよう構図を変えて撮影してください。

特定の部分にピントを合わせたいときは、測距方式をスポットオートフォーカスにします。ピント合わせの位置はフォーカスフレームの中央部分になります。

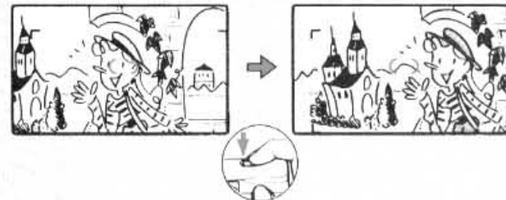
1 カメラの電源を"OFF"にします。

2 表示パネルに"cS⊃"が表示されるまでメインスイッチを押し続けてください。(約2秒以上)
測距方式がスポットオートフォーカスに切り替わりカメラ電源がONになります。"cS⊃"の表示を確認してからメインスイッチより指を離してください。
他は通常の撮影と同じです。



● カメラ電源を"OFF"にするとスポットオーフォーカスは解除されます。
● カメラ電源が"ON"の状態での測距方式切り替えはできません。





〈フォーカスロック/AEロック〉
シャッターボタンを半押しすると、そのときのピントと露出が固定されます。(フォーカスロック/AEロック)
構図によって、被写体がフォーカスフレームから大きくはずれるときはフォーカスロック/AEロックを利用して撮影してください。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。
ピント合わせが行われるとファインダー内"○"が点灯しピントと露出が固定します。

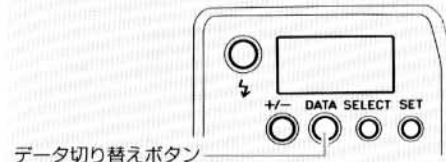
②シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押して撮影します。

- 半押ししている間フォーカスロック／AEロックは継続していますので、カメラの向きを変えてもピント、露出は変わりません。
- フォーカスロック／AEロックはシャッターボタンから指を離すと解除されます。

〈誤測距および測距不能になりやすい被写体〉

次のような被写体はピントが合いにくいのでフォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせて撮影しましょう。

- 低コントラストの被写体。
- 繰り返し同じパターンのもの。
- 暗い被写体。
- 水平線など横線だけの被写体。
- 非常に明るい被写体や光沢のある被写体。
- フォーカスフレームやその周辺に、強い光源がある場合、および太陽光など強い光源があり画面内に入る場合。
- フォーカスフレーム内に極度に距離の違う被写体が共存する場合。
- 高速で移動する被写体。



表示パネルに下記のいずれかを表示して撮影すると、フィルムに磁気記録し、プリント裏面に印字することができます。

①露出データ（F値、シャッタースピード、露出補正値）（設定中は撮影コマ全てに記録）
②タイトル1コマ記録（1コマ撮影後は④記録なしに戻ります。）
③タイトル連続記録（設定中は撮影コマ全てに記録）
④記録なし

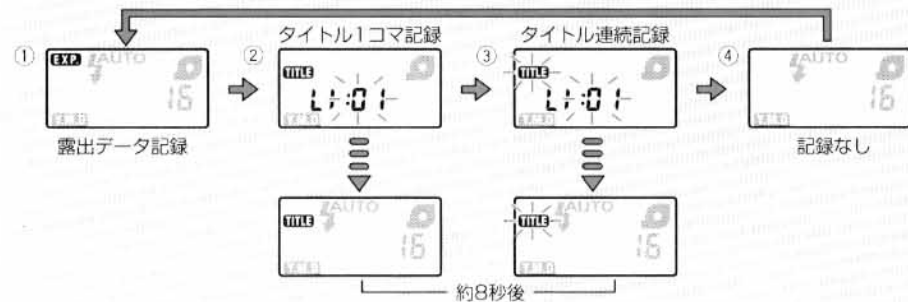
＊タイトルは"オメデトウ""アイラブユー"など9種類6言語、合計54語のなかから選ぶことができます。詳しくはP46をご覧ください。

裏面印字例：
露出データ

絞り	シャッタースピード
CF5.6 SS1/350 EB+1.5	
露出補正値	

裏面印字例：
タイトル

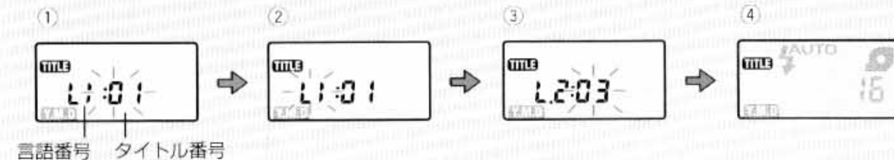
オメデトウ



1. 記録データの選択

カメラ電源ONのとき、データ切り替えボタンを押すごとに①露出データ記録→②タイトル1コマ記録→③タイトル連続記録→④記録なし→①→（以後繰り返し）の順で記録データの表示が切り替わります。希望のデータ表示をえらんでください。（②および③の表示は約8秒後に番号表示がカウンター表示に戻ります。）

- データセレクトボタンを押すと設定番号を確認することができます。



2. タイトルの選択

P46の表より希望のタイトルを選び、タイトル番号と言語番号をセットします。

〈タイトル番号と言語番号のセットのしかた〉

1. データ切り替えボタンを押して記録内容表示を"タイトル1コマ記録"または"タイトル連続記録"にします。
2. データセレクトボタンを押すと押すごとに、点滅表示が"タイトル番号"⇔"言語番号"に切り替わります。
3. データセットボタンを押して点滅している番号を、希望の番号にセットします。
4. "タイトル番号"と"言語番号"をセットしたら、約8秒放置するとカウンター表示に戻りセット完了です。

タイトルおよび言語表

言語番号 / タイトル番号	L1 日本語	L2 English	L3 Deutsch	L4 Français	L5 Español	L6 Italiano
01	オメデトウ	Congratu-lations	Herzliche Glückwünsche	Félicitations	Felicidades	Congratulazioni
02	アリガトウ	Thank You	Dankeschön	Merci	Gracias	Grazie
03	アイラブユー	I Love You	Ich liebe Dich	Je t'aime	Te quiero	Ti amo
04	パーティ	Party	Party	Réception	Fiesta	Festa
05	タンジョウビ	Birthday	Geburtstag	Anniversaire	Cumpleaños	Compleanno
06	ケッコン	Wedding	Hochzeit	Mariage	Boda	Matrimonio
07	メリークリスマス	Merry Christmas	Fröhliche Weihnachten	Joeux Noël	Feliz Navidad	Buon Natale
08	アケマシテオメデトウ	Happy New year	Frohes Neues Jahr	Bonne Année	Feliz Año Nuevo	Felice Anno Nuovo
09	ソツギョウ	Graduation	Abschlußfeier	Remise des Diplômes	Graduación	Laurea

別売アクセサリー

〈CONTAX Ti x 30.5リング〉
Tixに30.5mmフィルターやTvsメタルフードを取り付けるためのリングです。（付属のフードを取りはずして、30.5リングを取り付けます。）

〈CONTAX 30.5mmフィルター（ねじ込み式）〉
P（レンズ保護用）、1A, L39 (UV), A2 (81B), B2 (82A) の5種類が用意されています。

〈CONTAX TVsメタルフード〉
メタル式のフードです。30.5mmフィルター（1枚）を併用することができ、30.5リングにねじ込んで取り付けます。

〈CONTAX TVsメタルキャップ K-34（かぶせ式）〉
TVsメタルフードの上にかぶせるキャップ（メタル）です。

〈レンズキャップ K-31〉
CONTAX 30.5mmフィルターの前に取り付けるキャップです。

〈CONTAX Tixセミハードケース CC-67〉
コンタックスTixボディにTix30.5リング、30.5mmフィルター、Tvsメタルフード、メタルキャップK-34を装着したまま収納できる速写タイプのセミハードケースです。



主な仕様

型式：IX240全自動レンズシャッター式AFカメラ
使用フィルム：IX240カートリッジフィルム
画面サイズ：16.7×30.2mm
C/H/Pタイプ切り替え可能
レンズ：カールツアイスT＊ゾナー28mmF2.8（4群6枚）
シャッター：ダブルビトウイーン式レンズシャッター
15秒～1/1000秒（絞り開放時、最速1/500秒）
絞り：F2.8～16
撮影範囲：0.35m～∞
露出制御：プログラムAE、絞り優先AE
露出連動範囲（ISO100のとき）：EV0～EV18
測光方式：外部測光方式
露出補正：ワンショット補正：+1.5 EV
連続補正：+2.0～−2.0EV（1/3ステップ）
フィルム感度：データディスクによる自動セット（ISO25～10000、1/3ステップ）
測距方式：外部パッシブ方式／マルチAF、スポットAF切り替え可（フォーカスロック機構付）
ファインダー型式：逆ガリレオ型採光式ブライトフレームファインダー、低輝度時にLEDによる自動照明機能つき
倍率：0.5倍
プリント視野率：85%

ファインダー内表示：フォーカスフレーム、近接撮影範囲枠、撮影範囲枠（CHP切り替え）、フォーカス表示（測距表示）、露出補正マーク、ストロボマーク、プログラム表示
表示パネル：ストロボモードマーク（ストロボ自動発光モード、ストロボ赤目軽減自動発光モード、ストロボ強制発光モード、ストロボ発光禁止モード、遠景撮影モード）、露出データ記録マーク、タイトル記録マーク、スポットオートフォーカスマーク、露出補正値・タイトル番号・言語番号・日付・シャッタースピード表示、デートマーク、バッテリー警告マーク、フィルムカウンター、カートリッジマーク
フィルム装填：ワンタッチローディング
フィルム巻き上げ：自動巻き上げ
フィルム巻き戻し：オートリターン、オートストップ、途中巻き戻し可能
フィルムカウンター：液晶表示、逆算式（残り枚数表示）
セルフタイマー：電子式、作動時間10秒（作動中セルフタイマーLED表示）
ストロボ：内蔵式固定ストロボ／フラッシュマチックおよびガイドナンバー制御
撮影距離範囲：ISO 100: 0.35～2.1m
ISO 200: 0.35～3.0m
ISO 400: 0.35～4.3m
充電時間約3秒（常温、新品電池使用、当社撮影基準による）

磁気記録：

基本記録：日付、時刻、CHPプリントタイプのデータ

PQI記録

撮影データ：F値、シャッタースピード、露出補正値

タイトル記録：セレクトタイトル（6言語9タイトル）

印字機能： 1 日付・時刻データの両面印字

2 撮影データの裏面印字、または セレクトタイトルの裏面印字

電源： 3Vリチウム電池（CR2）1個

50%ストロボ使用で約20本（25枚撮り）撮影可能（常温、新品電池使用、当社撮影基準による）

寸法： 100.5（幅）×60.5（高さ）×33（奥行き）mm

質量： 225g

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。